

KPC マネジメントスクール 2024

「戦略的思考力」と「リーダーシップ」を鍛える次代の経営幹部育成プログラム

● 経営戦略コース

● 技術・イノベーションマネジメントコース



KPCマネジメントスクールが目指すもの

コロナ禍を経て、時代は大きく変わりました。企業経営においては、日本国内の人口減少社会の到来やカーボンニュートラルへの対応が具体的に求められるなど、大きな時代の転換点に立っています。

このような環境下、次代の経営幹部への期待はこれまで以上に大きく、新たな価値を創出する「戦略的思考力」と、組織を導く「リーダーシップ」が求められています。

当スクールでは、各社で選抜された経営幹部候補人材との徹底議論を基軸とした「仮説検証方式」によるグループ研究を進めます。参加者自身が、自社の戦略や、自分自身が抱える課題を改めて見つめ直すとともに、ベンチマークすべき企業へのインタビュー調査(企業訪問)を通じて、多種多様な戦略と価値観を習得します。そうした学びは、自社施策の立案・実行に大いに役立つと確信しています。

当スクールは「次代の経営を担う中核人材」育成の場として1997年に誕生して以来、各社で選抜された多くの方にご参加いただきました。修了生は1000名を超え、今や多くの企業の中核で活躍しています。7カ月に亘る当スクールでの熱い議論に、ぜひご参加ください。



KPCマネジメントスクール学長

石井 淳蔵

神戸大学 名誉教授
流通科学大学 名誉教授
(公財)関西生産性本部 評議員会副議長
人材開発委員会副委員長

■ 開催形式について

当スクールは、参加者の皆様の安全確保に十分に留意した上での集合形式を基本として実施します。

KPCマネジメントスクールの特色

1 経営者視点での他流試合による「戦略的思考力の強化」

自社が抱える戦略的課題を持ち寄り、経営者の視点に立った解決策をグループで議論します。議論によって課題解決の「仮説」を見出し、インタビュー調査等を通じて「検証」するプロセスを繰り返すことで、「戦略的思考力」を強化します。他社人材との白熱した真剣な議論は、まさに他流試合です。



2 自らの意志で選定するインタビュー調査(企業訪問)

スクールの中盤から後半にかけ、グループで立てた仮説を検証するために「インタビュー調査(企業訪問)」を実施します。当スクールのハイライトの一つとも言えるインタビュー調査は、単なる企業訪問とは異なり、高い目的意識を持って臨むため、訪問先企業幹部と白熱した議論が行われるとともに、面談ならではの情報交流が展開されます。



3 異業種・少人数による持続的な相互研鑽と人脈形成

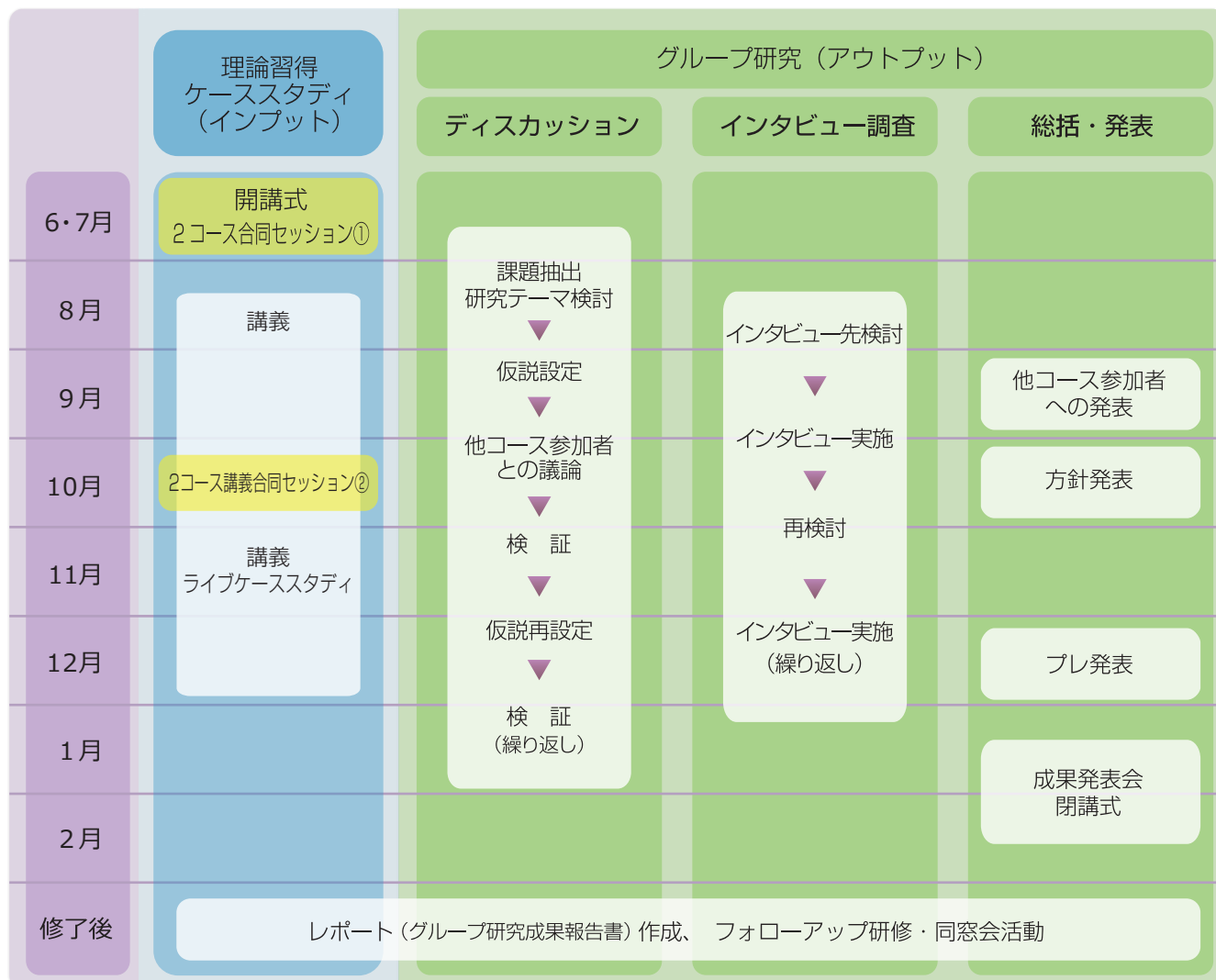
各社で活躍する人材が業界を超えて参加する当スクールは、少人数ならではの一体感を生みながら異業種他社の経営幹部候補生との議論を通じて相互に研鑽します。また修了後も継続的に、フォローアップ研修・同窓会活動の実施を支援しますので、中長期視点の深い人脈形成が可能です。



コース名	実施日数 ※	主 な 対 象			金 額 (10%税込) 上段：賛助会員 下段：一般	掲 載 ページ
		部長	課長	係長 主任		
経営戦略コース	17	◎	◎	○	両コース共通 913,000円 1,049,400円	3
技術・イノベーションマネジメントコース	20	○	◎	◎		5

※表記日数に加え、全国各地でのインタビュー調査(企業訪問、対面またはオンライン形式)を別途、実施します。

プログラムの流れ



*合同セッションでは、他コースメンバーと共に学び、幅広い議論を展開することにより、経営幹部として必要な下地を作るとともに、グループ研究をより具体性・実効性の高いものに昇華させます。

*上記スケジュールは進捗状況等により、一部、変更する場合があります。

ご参加企業一覧 (直近5年間：全40社、161名、単年度平均32名、順不同)

エア・ウォーター(株)、(株)NTTドコモ、NTTビジネスソリューションズ(株)、(株)NTTフィールドテクノ、(株)MCエバテック、(株)大阪国際会議場、(株)大林組、奥野製薬工業(株)、(株)加貫ローラ製作所、(株)カネカ、関西熱化学(株)、(株)神崎高級工機製作所、近畿日本鉄道(株)、近畿労働金庫、近鉄グループホールディングス(株)、(株)クボタ、倉敷紡績(株)、(株)栗本鐵工所、サカタウエアハウス(株)、住友精密工業(株)、積水ハウス(株)、太陽工業(株)、(株)高島屋、ダイキン工業(株)、テイカ(株)、東和薬品(株)、(株)ドコモCS関西、西日本電信電話(株)、西日本旅客鉄道(株)、日本ビラー工業(株)、阪急阪神ホールディングス(株)、バンドー化学(株)、パナソニック ホールディングス(株)、日立造船(株)、古野電気(株)、マルホ(株)、(株)村田製作所、理研ビタミン(株)、(株)りそな銀行、レンゴー(株)



経営戦略コース

経営環境の変化を見極め、 事業・組織の変革を起こせるビジネスリーダーの育成

ねらい

企業経営を取り巻く状況が大きく変化する中、これまで収益を上げていたビジネスモデルが瞬く間に通用しなくなる時代が到来している。それに伴い、今日の経営幹部には、今後の社会・経営環境の変化や近未来の技術動向を的確に把握しつつ、組織を的確な方向に導く戦略的思考力とリーダーシップが、まさに求められている。

本コースでは、自社が抱える経営課題に基づくグループ研究を基軸として、ケーススタディやインタビュー調査（企業訪問）、そして、他社経営幹部人材との徹底的な議論を通じて、自らの手で事業・組織の変革を起こせるビジネスリーダーを育成する。

特長

1 経営者学

第一線で活躍する企業経営者らをゲスト講師に迎え、経営幹部として習得すべき理論とともに、経営者ならではの経験談を基に議論を重ねます。

2 生きたケーススタディ

議論テーマは参加企業が「いま」抱える経営戦略・事業戦略等の課題に基づきます。他社の経営幹部人材との白熱した議論は、まさに「生きたケーススタディ」です。

3 ベンチマークスキルの習得

他社優良事例（ベストプラクティス）を分析して取り入れる「ベンチマークスキル」の手法を学びます。インタビュー調査での実践を通じてそのスキルを習得します。

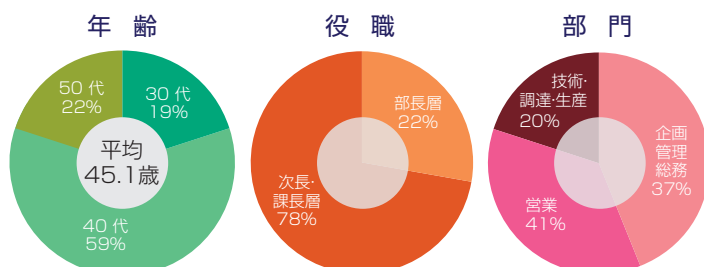
グループ研究テーマ・インタビュー調査実績

実施年度	研究テーマ	主なインタビュー先(各社の経営幹部、順不同)
2023年度	世界に先駆けた日本の環境経営のあり方～日本の環境経営をグローバルに推進する方策～	黒川温泉観光旅館協同組合、(株)神戸酒心館、コニカミノルタ(株)、日東電工(株)
	事業経営の5Sにおける2S(整頓・整理)～強みの定義と集中・選択～	味の素(株)、沖縄セルラー電話(株)、オムロン(株)、東レ(株)
	新規事業を柱にするための仕組み～既存事業にプラス1～	(株)TOUCH TO GO、日本ガイシ(株)、阪和興業(株)
	アルムナイ・複業リファラルは成熟企業にブレークスルーをもたらすのか～メンバーシップ2.1型組織の提言～	(株)荏原製作所、大英産業(株)、北九州市、(株)TalentX、(株)ハッカズーク、ライオン(株)
	エンゲージメントを向上させるモデルとは	四條畷市、(株)スーパーホテル、東京海上日動火災保険(株)、リンクアンドモチベーション(株)
2022年度	既存事業の深化	京セラ(株)、(株)小松製作所、(株)関ヶ原製作所
	新規事業を生み出す要因	九州旅客鉄道(株)、ブラザー工業(株)、三宅町(奈良県)、(株)みんなの銀行
	既存事業の継続／深掘と新規事業の探索を同時に行うための経営戦略	カゴメ(株)、(株)経営共創基盤、(株)JTB、北海道テレビ放送(株)
	社会価値向上に先駆的に取り組む企業の行動とは	味の素(株)、(株)坂ノ途中、(株)セコマ、不二製油グループ本社(株)
	企業と人が成長するための人的資本経営	サイボウズ(株)、トヨタ労働組合、(株)丸井グループ

実施要領

- ・会 期 2024年6月～2025年2月
(17日間、およびインタビュー調査)
- ・参加費 会員:913,000円 一般:1,049,400円(10%税込)/1名
(消費税および所定の飲食費・書籍代・宿泊費を含みます。)
- ・対 象 経営企画・事業戦略立案能力向上を目指す経営幹部候補
- ・定 員 25名程度

参加者データ (2023年度)



コーディネーター(所属・役職は2023年12月現在)



神戸大学 名誉教授 加護野 忠男 氏
(公財)関西生産性本部 理事 総務政策委員会副委員長
1947年生まれ。70年神戸大学経営学部卒業。75年同大学博士課程修了、79年助教授、88年教授に就任。98年から2年間経営学部長を歴任。2011年甲南大学特別客員教授及び現職。2019年～2022年神戸大学社会イノベーションセンター特命教授。経営学博士。専攻は、経営戦略論、経営組織論。国内のみならず海外有力企業のトップマネジメントプログラムの講師として活躍。近著には「ゼミナール経営学入門(新装版)」(共著)「新しいビジネスをつくる」(共編著)「MBAが考えるヘルスケア経営」(編著)「松下幸之助」(編著)等がある。



(株)鳥取銀行 元代表取締役頭取 稲垣 滋 氏
(公財)神戸大学六甲台後援会 理事長
1947年生まれ。70年神戸大学経済学部卒業後、同年(株)三和銀行(現三菱UFJ銀行)に入行。法人部副部長、95年みどり銀行(現みなと銀行)取締役、98年三和銀行参与等を歴任後、同年鳥取銀行に入行。常務、専務、副頭取等を経て、2005年代表取締役頭取に就任。約5年間に亘りトップとして同行の収益力強化をリードしてきた。信条は「公平公正」「プラス思考」「透明性重視」「行動力重視」。



(株)Kairos 代表取締役 長友 隆司 氏
1953年生まれ。77年早稲田大学教育学部卒業。本田技研工業(株)に入社。人事労務部門でホンダ創造法等の問題解決法や知識創造法等に関する事務局を担当。その後、鈴鹿富士ゼロックス(株)に入社。人事企画・経営企画において中期経営計画の策定、人事制度全般の再構築、企業体質強化に関する全社運動事務局、経営品質向上活動プログラム推進事務局等を担当し、コミュニケーションユニット長を最後に05年に独立、現在に至る。企業・行政組織等の組織革新、経営改革に対する支援活動を行っている。



関西学院大学 専門職大学院 経営戦略研究科 教授 吉村 典久 氏
(公財)関西生産性本部 理事
1968年生まれ。91年学習院大学経済学部卒業。94年神戸大学大学院経営学研究科博士課程後期課程中途退学。和歌山大学経済学部教授、大阪市立大学(現大阪公立大学)大学院経済学研究科教授を経て、22年より現職。博士(経営学)。03年度 Cass Business School, City, University of London 客員研究員。ガバナンス構造が企業行動・成果に与える影響、ファミリービジネスにおける経営のあり方をテーマに研究を進めている。著書に「日本の企業統治」「部長の経営学」「会社を支配するのは誰か」「スピノアの経営学」「ドイツ企業の統治と経営」(編著)「新しいビジネスをつくる」(共編著)「1からの経営学」(共編著)「企業統治」(共著)等がある。

本年度プログラムの特長

①「経営学」(実践的講義)と「経営者学」(ライブケーススタディ)

経営戦略・事業戦略のベースとなる「経営学」理論と、経営者自らの修羅場経験を通じて学び得た「経営者学」を本コースコーディネータ、および、各界を代表する経営者講師自ら伝言する。

②「グループ研究」と「インタビュー調査」

参加者各自・各社の課題解決のための「仮説」を、企業の経営幹部や実務家へのインタビュー調査を行うことにより「検証」し、自社に持ち帰る(標準4社程度)。

③「他社人材との議論」と「人脈形成」

「本コース全体での広い議論」と「グループ内での深い議論」を織り交ぜて行いつつ、「合宿例会」「懇親会」を重ねることにより、将来に繋がる人脈を形成する。また、他コース参加者とともに学ぶ合同セッションを通じて、異なる立場の見解を議論に持ち込む。

スケジュールとプログラム:全17回+インタビュー調査(メンバー相互+外部4社程度)

回	日時	曜日	午 前	午 後(前半)	午 後(後半)	夜	グループ研究フロー	
1	6月21日	(金)	(PTA会)	開講式・学長講義 本スクール学長 石井 淳蔵 氏	開講式・合同セッション① 関西学院大学 吉村 典久 氏 コースオリエンテーション・自己紹介	懇親会	—	
2	7月9日	(火)	講義・討議・実践トレーニング(演習) 「ファイナンスと価値創造～投資評価と企業価値評価、価値ベースの意思決定等～」 京都大学経営管理大学院 経済学部教授 砂川 伸幸 氏				懇親会	—
3	7月30日	(火)	参加者の課題認識発表(前半)「我が社・我が事業部の課題」		講義・討議 「経営戦略と戦術」 神戸大学 加護野 忠男 氏	懇親会 合宿	—	
4	7月31日	(水)	参加者の課題認識発表(後半)「我が社・我が事業部の課題」		講義・討議「企業経営とは」 (株)鳥取銀行 元代表取締役頭取 稲垣 滋 氏	—	グループ 研究テーマ 希望申告	
5	8月23日	(金)	講義・討議 「経営戦略講座①」 関西学院大学 吉村 典久 氏	ライブケーススタディ①	グループ編成・グループ研究 (研究テーマ検討)	懇親会	グループ編成	
6	9月6日	(金)	グループ研究(仮説の構築)	講義・討議 「戦略思考講座①」 (株)Kairos 長友 隆司 氏	ライブケーススタディ②	懇親会	仮説の構築	
7	9月7日	(土)	前年度 グループ研究成果発表	グループ研究(仮説の構築)	ライブケーススタディ③	—		
8	9月20日	(金)	講義・討議 「経営戦略講座②」 関西学院大学 吉村 典久 氏	グループ研究(仮説の構築)	講義・討議 「戦略思考講座②」 (株)Kairos 長友 隆司 氏	懇親会		
インタビュー	10月上旬～下旬		内部インタビュー調査(メンバー企業相互訪問) *グループ別活動					
9	10月4日	(金)	グループ研究 方針発表会	講義・討議 「戦略思考講座③ベンチマーク」 (株)Kairos 長友 隆司 氏	グループ研究(仮説の構築)	懇親会	インタビュー調査 希望申告 仮説の構築	
10	10月25日	(金)	グループ研究(仮説の構築)	合同セッション② (技術コース参加者との議論)	グループ研究(仮説の構築)	懇親会		
11	11月21日	(木)	グループ研究(仮説の構築)	グループ研究レビュー	ライブケーススタディ④	懇親会 合宿	仮説の検証 再構築	
12	11月22日	(金)	講義・討議 「経営戦略講座③」 関西学院大学 吉村 典久 氏	グループ研究(仮説の構築)	ライブケーススタディ⑤	—		
グループ研究	11月29日	(金)	自主ワーク推奨日(グループ別)					
インタビュー	11月～12月下旬		インタビュー調査(外部) *グループ別活動					
13	12月12日	(木)	グループ研究 (仮説の検証・再構築)	プレ発表①	グループ研究 (仮説の検証・再構築)	懇親会 合宿	—	
14	12月13日	(金)	グループ研究 (仮説の検証・再構築)	ライブケーススタディ⑥	グループ研究 (仮説の検証・再構築)	—		
15	1月10日	(金)	プレ発表②	グループ研究(まとめ)	グループ研究(まとめ)	懇親会	仮説検証の総括	
16	2月2日	(日)	本コース「グループ研究成果発表会」(公開)				懇親会	グループ研究 成果発表
17	2月20日	(木)	決意表明「私が自社で行動 すべきこと～グループ研究での 学びを通じて～」(個人発表)	閉講式・修了証書授与 各コースによる発表		懇親会	スクール 全体発表	
修了後	修了～3月		報告書作成					<div></div> 連続日

■ 連続日
■ 単独日

*実施時間は原則として「連続日1日目および単独日」は10:00～18:00(+懇親会)、「連続日2日目」は9:00～17:00です。

(7/30-31、11/21-22、12/12-13は合宿形式で実施します。)

*会場は主として、(公財)関西生産性本部会議室、クロスウェーブ梅田(宿泊型研修施設)です。

*上記スケジュールは事情により一部変更となる場合があります。

* ■ 2コース合同実施 ■ インプット(講義) ■ ゲストによる講義・発表 ■ 参加者による発表 ■ グループ研究

技術・イノベーションマネジメントコース

顧客、事業、経営の視点を持ち 自ら変革を起こせる 研究開発リーダーの育成

ねらい

グローバル競争下において、わが国企業が将来にわたって発展していくためには、研究開発、技術開発、商品開発担当者が、イノベーションやR&Dの生産性向上を通じて顧客の欲する、かつ業績に貢献しうる新しい技術・商品、サービスを継続的に生み出していくことが必要不可欠である。

本コースでは、目標の明確化、収益性の重視、柔軟な組織体制などの基本要素を踏まえ、技術・イノベーションの基本的な考え方や、代表的企業の成功例と失敗例を学び、異業種間の経験交流とディスカッションを重ねることによって、参加者、各社にとって有益な技術経営、新規技術、新商品開発のあり方を学ぶ。

特長

本コースは、単に体系的にまとめられたMOT(技術経営)の理論を学ぶ場ではありません。参加者は、成功事例に固有の工夫を自分自身の言葉で検証することで実効性の高い学びを得ることができます。そのことにより、次に自分も行動に移してみたいという内発的な動因が生まれます。

そのために、本コースは、①事例を読み解き、成功を獲得するための仮説を自ら立てる、②その成功の背景にある課題の捉え方・取り組み方・行動等を検証する、③成功事例をそれを成し遂げた本人から直接話を伺う、という構成になっています。知識だけでなく行動として体感できることが本コースの特長です。

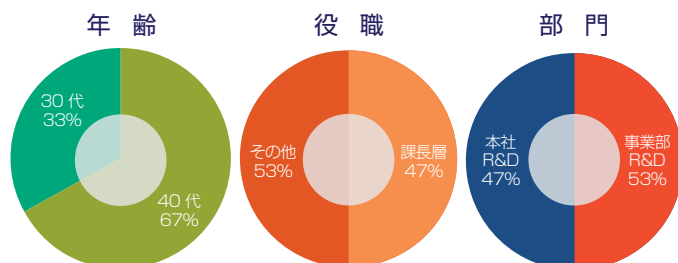
グループ研究テーマ・インタビュー調査実績

実施年度	研究テーマ	主なインタビュー企業(50音順)
2023年 (テーマは 2023年12月現在)	①オープンイノベーションから学ぶ社内連携のコツ ②企業価値創造に貢献する事業・商品開発 ③市場に受け入れられる新製品/サービス開発提案方法	曾澤高圧コンクリート(株)、アイリスオーヤマ(株)、旭化成(株)、(株)イシダ、 出光興産(株)、エア・ウォーター(株)、AGC(株)、オリックス(株)、花王(株)、 関西電力(株)、京セラ(株)、(株)クボタ、(株)クレハ、グンゼ(株)、コニカミノルタ(株)、 小林製薬(株)、(株)小松製作所、シーオス(株)、シスメックス(株)、(株)資生堂、 資生堂ジャパン(株)、(株)島津製作所、(株)ジンス、積水化学工業(株)、 大日本印刷(株)、(株)デンソー、東京ガス(株)、東レ(株)、TOTO(株)、凸版印刷(株)、 トラスコ中山(株)、日清紡(株)、日ドラ(株)、日本ガイシ(株)、(株)パナダイ、 不二製油(株)、プラザー工業(株)、三浦工業(株)、三井化学(株)、(株)三井住友銀行、 森永製菓(株)、ヤマハ(株)、(株)LIXIL、(株)フコックホールディングス
2022年	①新事業推進のための組織連携 ～押してだめならまわり込め～ ②"シン"バックキャストの設定による創新(イノベーション)	
2021年	①日本の製造業におけるDX推進に必要な要素の研究 ②社外の声から始まるアイデア創出	

実施要領

- ・会 期 2024年6月～2025年2月
(20日間、およびインタビュー調査)
- ・参加費 会員:913,000円 一般:1,049,400円(10%税込)/1名
(消費税および所定の飲食費・資料代・宿泊費を含みます。)
- ・対 象 技術経営、新規技術、新商品開発、イノベーション、
マネジメント能力向上を目指すミドルマネージャークラス
- ・定 員 15名程度

参加者データ (2023年度)



コーディネータ (所属・役職は2023年12月現在)



古田 健二 氏
TIMコンサルティング 代表
ビジネス・ブレークスルー大学 大学院 客員教授
1947年生まれ。71年東京工業大学工学部卒業。73年同大学理工学研究科修士課程修了。80年スタンフォード大学Degree of Engineer取得。総合電機メーカーにて電子デバイス開発に従事。その後Arthur D. Little(Japan)を経て、SRIインターナショナルに移籍。96年SRIコンサルティング設立と同時に初代代表取締役就任。2000年4月には株式会社フューチャードイノベーションを設立、企業経営、技術に関する日本の代表的コンサルタントとして活躍してきた。09年からは東京工業大学に移り、特任教授として人材育成の観点における大学と産業界の連携の強化に関する活動実績を有している。主な著書に「第5世代のテクノロジー・マネジメント」など。



六車 忠裕 氏
T&M研究会 代表/元 日東電工(株) 技術企画部長
人事部長/日東University部長
1974年大阪府立大学工学部応用化学科修士課程修了。同年日東電工工業(株)(現 日東電工(株))入社。中央研究所勤務。熱硬化性樹脂の基礎・自動車材料等応用研究に従事。その後、1997年全社組織改革プロジェクト参画。1989年経営企画部にて、R&D組織体制構想や技術戦略立案業務を担当。1992年人事部にて、採用、海外人事、勤労、人事企画等のマネジメント業務を担当。1997年技術企画部にて、技術系人事、研究開発制度設計、新規テーマ探索、海外研究所の立ち上げ運営、およびマネジメント全般を担当。2007年全社教育センター、日東Universityにて、全社教育企画、社内大学の企画、運営。2014年日東電工(株)退職後、(一社)企業研究会、(公財)全日本科学技術協会他にて技術経営に関する研修の講師、フォーラムのアドバイザー、個別企業支援活動に従事し現在に至る。



伊藤 宗彦 氏
大手前大学 経営学部 教授/神戸大学 名誉教授
(公財)関西生産性本部 評議員
1981年名古屋大学工学部卒業。松下電工(株)入社。2000年神戸大学大学院経営学研究科博士課程前期修了(経営学修士)。03年神戸大学大学院経営学研究科博士課程後期修了(商学博士)。同年神戸大学経済経営研究所助教授。2007年より教授を経て、2022年より現職。主な著書は「1からのサービス経営」、「1からのデジタル経営」、「イノベーション・マネジメント」、「製品戦略マネジメントの構築」など。



原 拓志 氏
関西大学 商学部 教授
1962年生まれ。85年神戸大学経営学部卒業。繊維メーカーで約5年間勤務。93年神戸大学経営学研究科博士前期課程修了。神戸大学経営学部助手。96年同助教授。99年神戸大学大学院経営学研究科助教授。2001年エディンバラ大学でPhD取得。04年神戸大学大学院経営学研究科教授。20年より現職。研究分野は、テクノロジー・マネジメント、経営組織。主な著書に「Innovation in the Pharmaceutical Industry」、「ベシック・プラス技術経営」(宮尾学らと共著)など。

スケジュールとプログラム：全20回＋インタビュー調査（外部 4社程度）

回	日時	曜日	午 前	午 後	夜	グループ研究フロー
1	6月21日	(金)	(PTA会)	開講式・学長講義 本スクール学長 石井 淳蔵氏 合同セッション① 関西学院大学 吉村 典久氏	懇親会	—
				コースオリエンテーション・自己紹介 2023年度研究成果報告		
2	7月12日	(金)	コーディネータ講義&グループ討議・TIMコンサルティング 古田 健二氏 「グループ研究・ケーススタディの進め方」 「テクノロジーマネジメントの実践」	全体討議・問題意識の共有	懇親会 合宿	コーディネータ 講義について の討議
3	7月13日	(土)	コーディネータ講義&グループ討議・ 大手前大学 伊藤 宗彦 氏 「デジタルエコノミー時代の新事業開発」	コーディネータ講義・大手前大学 伊藤 宗彦 氏 「製造業のサービス化による価値創造」 「仮説検証の方法」	—	
4	7月26日	(金)	コーディネータ講義&グループ討議・ TIMコンサルティング 古田 健二 氏 「人材マネジメント」	コーディネータ講義&グループ討議・ 関西大学 原 拓志 氏 「開発プロセスマネジメント」	懇親会 合宿	
5	7月27日	(土)	グループ研究(仮の研究グループ編成)	グループ研究(研究グループ確定・研究テーマ設定)	—	研究グループ 編成・研究 テーマ設定
6	8月9日	(金)	グループ研究(仮説の構築・検証)	グループ研究(仮説の構築・検証)	—	仮説の構築・検証 インタビュー 希望申告
7	9月6日	(金)	ライブケーススタディ①	ライブケーススタディ②	懇親会	
8	9月27日	(金)	グループ研究(仮説の構築・検証)	グループ研究(仮説の構築・検証)	—	
9	10月11日	(金)	グループ研究(仮説の構築・検証)	ライブケーススタディ③	—	
10	10月25日	(金)	合同セッション② (経営戦略コース参加者との議論)	グループ研究(仮説の構築・検証)	懇親会	
11	11月8日	(金)	グループ研究(仮説の検証・再構築)	グループ研究(仮説の検証・再構築)	懇親会 合宿	
12	11月9日	(土)	本コースOBとの仮説問答(予定)	グループ研究(インタビュー調査先検討)	—	
インタビュー	11月上旬～ 12月下旬		インタビュー調査 *グループ別活動			
13	11月22日	(金)	グループ研究(仮説の構築・検証)	ライブケーススタディ④	懇親会	
14	12月6日	(金)	グループ研究(仮説の検証・再構築)	グループ研究(仮説の検証・再構築)	懇親会 合宿	
15	12月7日	(土)	グループ研究(仮説検証のまとめ)	グループ研究(仮説検証のまとめ)	—	
16	12月20日	(金)	グループ研究(仮説検証のまとめ)	グループ研究(仮説検証のまとめ)	—	仮説検証の まとめ 研究成果 発表の準備
インタビュー	1月上旬～ 1月下旬		インタビュー調査 *グループ別活動			
17	1月17日	(金)	プレ発表会	グループ研究(仮説検証のまとめ)	懇親会 合宿	
18	1月18日	(土)	グループ研究 (仮説検証のまとめ 研究成果発表の準備)	グループ研究 (仮説検証のまとめ 研究成果発表の準備)	—	
19	2月1日	(土)	グループ研究(発表準備)	成果発表会	懇親会	グループ研究 成果発表
20	2月20日	(木)	全体討議・研究成果の実践決意発表	閉講式・修了証書授与 各コースによる研究成果発表	懇親会	スクール 全体発表
修了後	修了～3月		報告書作成			<div><div></div> 連続日</div> <div><div></div> 単独日</div>

*実施時間は原則として、9:30～17:30です。連続日は合宿形式で実施し、2日目の実施時間は9:00～17:00とします。

*会場は主に関西生産性本部会議室です。

*上記スケジュールは事情により一部変更になる場合があります。

* 2コース合同実施 インプット(講義) ゲストによる講義・発表 参加者による発表 グループ研究



公益財団法人 関西生産性本部

〒530-6691

大阪市北区中之島6-2-27 中之島センタービル28階

電話 (06)6444-6464 FAX(06)6444-6450

URL <https://www.kpcnet.or.jp>

申込 上記ホームページでも受付しています。

【経営戦略コース】ライブケーススタディ 経営者講師・テーマ

■経営者①：9/6(金) 臨済宗大本山 妙心寺 退蔵院 副住職 松山 大耕 氏

「禅の教えとリーダーシップ～なぜ今、ビジネスの世界で禅(ZEN)が求められているのか～」

1978 年京都市生まれ。2003 年東京大学大学院 農学生命科学研究科修了。埼玉県新座市・平林寺にて 3 年半の修行生活を送った後、2007 年より退蔵院副住職。日本文化の発信・交流が高く評価され、2009 年観光庁 Visit Japan 大使に任命される。また、2011 年より京都市「京都観光おもてなし大使」。2016 年『日経ビジネス』誌の「次代を創る 100 人」に選出され、同年より「日米リーダーシッププログラム」フェローに就任。2018 年より米・スタンフォード大客員講師。2019 年文化庁長官表彰(文化庁)、重光賞(ボストン日本協会)受賞。2021 年より(株)ブイキューブ社外監査役、京都市教育委員会委員。2011 年には、日本の禅宗を代表してヴァチカンで前ローマ教皇に謁見、2014 年には日本の若手宗教家を代表してダライ・ラマ 14 世と会談し、世界のさまざまな宗教家・リーダーと交流。また、世界経済フォーラム年次総会(ダボス会議)に出席するなど、世界各国で宗教の垣根を超えて活動中。



■経営者②：9/6(金) VISITS Technologies(株) 代表取締役 松本 勝 氏

「破壊的イノベーションの起こし方～デジタル × デザイン思考による経営変革～」

東京大学大学院工学系研究科修了後、ゴールドマン・サックスに入社。トレーダーを経て人工知能を用いた投資ファンドを設立したのち、VISITS Technologies を設立。AI 時代からこそ人間にとって重要な「創造力」にいち早く着目し、不可能と言われていた意見やアイデアの価値を数値化する合意形成アルゴリズム「CI (コンセンサス・インテリジェンス) 技術」を開発(日米特許取得)。意思決定を DX する「VISITS forms」、創造力測定・育成ツール「DX クラウド(デザイン思考テスト)」などを展開している。



■経営者③：9/7(土) オムロン株式会社 執行役員 技術・知財本部長

オムロン サイニックエックス(株) 代表取締役社長 諏訪 正樹 氏

「オムロン サイニックエックスにおけるイノベーションデザイン ～新たな価値を創出する仕組みと人材～」

1997 年立命館大学 理工学研究科 博士後期課程修了、同年オムロン(株)入社。画像・光センシングの研究開発に従事。2008 年同技術本部コアテクノロジーセンター技術専門職を経て、18 年オムロン サイニックエックス(株) 代表取締役社長に就任。21 年オムロン(株)技術知財本部 副本部長及び技術・知財戦略室長兼任、22 年同社執行役員 技術・知財本部長就任。奈良先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究科 客員教授、九州工業大学 生命体工学研究科 客員教授も務める。



■経営者④：11/22(金) akippa(株) 代表取締役社長 CEO 金谷 元気 氏

「世界一のモビリティプラットフォームを目指して ～駐車場シェアサービスで急成長を遂げるベンチャー企業 akippa の取り組み～」

1984 年生まれ。駐車場シェアリング「akippa」の代表取締役社長。高校卒業後から 4 年間はプロ選手を目指し関西サッカーリーグでプレー。引退後に通信系の上場企業で 2 年間営業を経験し、2009 年に自宅で会社を設立。2014 年に駐車場予約アプリ「akippa」をリリースし、2023 年 3 月時点で会員数は累計 300 万人を突破している。



■経営者⑤：12/12(木) 人とホスピタリティ研究所 代表 高野 登 氏

「サービスからホスピタリティへ～人が輝く組織とは～」

1953 年生まれ。74 年渡米。ニューヨーク・ホテルキタノ等で勤務後、90 年リッツ・カールトンに移籍、サンフランシスコ開業に携わる。91 年ロサンゼルス・オフィスに転勤。その間、米国西海岸やシドニー等でホテル開業をサポート。同時にホノルル・オフィスを開設する。94 年リッツ・カールトン日本支社長として日本でのリッツ・カールトンのブランディング活動を担う。2010 年より現職。



■経営者⑥：12/13(金) (株)坂ノ途中 代表取締役 小野 邦彦 氏

「100 年先もつづく農業への挑戦～共感と購買をどう結ぶか～」

1983 年奈良県生まれ。京都大学総合人間学部では文化人類学を専攻。外資系金融機関での「修行期間」を経て、2009 年(株)株式会社坂ノ途中を設立。「100 年先もつづく、農業を」というメッセージを掲げ、農薬や化学肥料不使用で栽培された農産物の販売を行っている。提携農業者の約 9 割が新規就農者。少量不安定な生産でも品質が高ければ適正な価格で販売できる仕組みを構築することで、環境負荷の小さい農業を実践する農業者の増加を目指す。その他、東南アジアの山間地域で高品質なコーヒーを栽培することで森林保全と山間地での所得確保の両立を目指す「海ノ向こうコーヒー」を展開。



<本年度プログラムの特長>

【①】「実践的な MOT (技術経営) 講義」と「実務家による実践例」(ライブケーススタディ)

(1) 単に体系的にまとめられた MOT(技術経営)の理論を学ぶのではなく、企業の現場で生きる「技術・イノベーション」のマネジメント力に必要な知識をコーディネータやゲスト講師からの講義とディスカッションを通じて習得する。

(2) 成長を遂げている企業の実務家による事例紹介(ライブケーススタディ)を通じて具体的な取り組みのあり方を考える。

【②】「グループ研究」と「インタビュー調査」

・参加者各自・各社の課題認識をもとにグループを編成し、グループメンバーやコーディネータとの議論を通じて技術・イノベーションの成功事例を読み解き、成功を獲得するための仮説を自ら立て、それを成し遂げた企業の経営幹部や実務家本人へのインタビュー調査を行うことにより検証する。自らの言葉で検証して直接当事者の話を聞くことにより、知識だけでなく行動への内発的な動因も生む実効性の高い学びを得る。

【③】「他社人材との議論」と「人脈形成」

- ・全体討議とグループ討議を「合宿例会」「交流会」を通じて幾度も重ねることにより、将来に繋がる人脈を形成する。
- ・「他コース参加者」と共に学ぶ数回の合同セッションを通じて、異なる立場の見解を議論に持ち込み、研究内容と自社実践の具体策に磨きをかける。

<ライブケーススタディ詳細>



9月6日(金) 日東電工(株) inovas(イノヴァス)

講師：日東電工(株) フェロー 副 CTO 全社技術部門 研究開発本部長 佐竹 正之 氏

テーマ：「日東電工の三新活動とニッチトップ戦略」

基幹技術である粘着技術や塗工技術をベースに、エレクトロニクス業界や、自動車、住宅、インフラ、環境および医療関連などの領域で、様々な製品を提供しグローバルに事業を展開。2016年には「研究開発」「人財育成」を一体的に行う施設「inovas(イノヴァス)」を設立。同社の成長の根幹には、既存製品の「新」しい用途を開拓し、「新」製品を開発したうえでその用途を広げ、「新」しい需要を創出する「三新活動」、グローバルシェア No.1を目指すグローバルニッチトップ戦略、各国・エリアの市場において、特有のニーズに応じた製品を投入してトップシェアを狙うエリアニッチトップ戦略がある。これら戦略とそれを支える R&D 活動について解説いただく。



10月11日(金) オムロン(株) 京阪奈イノベーションセンタ

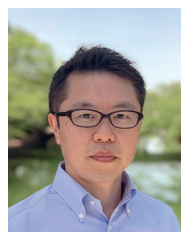
講師：オムロン(株) 技術・知財本部 アドバンステクノロジーセンタ

アドバンステクノロジー開発部 技術専門職

木下 航一 氏

テーマ：「Sensing&Control+Think のコア技術で新しい価値創造へのチャレンジ」

制御機器・FA システム、社会システム、健康医療機器、電子部品など多岐に亘る事業を展開。分散していた国内の研究・開発拠点を統合し、グローバル R&D の中核拠点として 2003 年に京阪奈イノベーションセンタを設立。「センシング&コントロール技術」を情報を価値に変換するコア技術に、Think(人の知見)をプラスして、新しい価値の創造を通して社会的課題の解決に貢献する技術戦略、事業戦略、人財戦略などについてお聞きする。



11月8日(金) 関西生産性本部会議室

講師：インダメディカル(株) 代表取締役社長

國崎 嘉人 氏

テーマ：「インダグループの医療システム事業への挑戦」

インダメディカルは、食品業界向け包装・計量機器メーカーのトップランナーである「はかり」のインダが出資し、2020年4月に設立された。インダの保有技術を応用し、新事業として医療分野に進出し、米国にも販売会社を設立。さらに医療事業のビジョン・ミッションを実現するため医療機器メーカー日本精密測器の M&A を行った。今回はその立役者でもある同社代表取締役社長の國崎嘉人氏に、ゼロイチの新規事業開発のストーリーをお話しいただく。

※ライブケーススタディ④については、日程含め現在調整中です。

※テーマ表現・内容・講演者・開催方法等は、事情により変更となる場合があります。